

くらしに役立つなんでも相談

健康の悩み、生活・家庭の心配ごとなど、なんでも気軽にご相談ください。



友の会コーナーへ

友の会だより

中野共立健康友の会・広報委員会発行
〒164-0001 中野区中野5-45-4

Eメール：a_nozawa@kenyu-kai.or.jp
Tel:03-3386-9139

私の 思い出を 思い出して

誰にも人生の中で、忘れられない思い出があるのではないだろうか。

今年、戦後70年。現在70歳以上の方々は、戦前、戦後の苦しい時代を身をもって体験してきた生き証人です。

今回、アンケートで「忘れられない思い出」と題して友の会会員に寄稿していただきました。

長い道のりの中で、心に残る思い出は人さまざまですが、二度と悲惨な戦争を繰り返さず、平和な日本であり続けたいものです。



2・26事件

塩原 美恵子 91歳

昭和11年2月26日。私は小学6年生。その日は私立中学の入学試験で教室は空席が多く自習をしていました。・・・と、開成中学校を受験し戻ってきたE君が息をはずませ「大雪の朝の戒厳令下の東京の街の様子」を先生に報告しました。先生は何も言わずそそくさと職員室に行かれました。若い軍人らが蜂起して時の政府の要人を襲い銃殺した「2・26事件」だったと後に知りました。



車が近づき「最敬礼！」の聲がかかりました。私はせっかくのチャンスだから、天皇と皇帝の顔を拝見しようとした。その夜、明治生まれの父から、「それは不敬罪にあたる」と叱られました。その父の顔も優しかったが、日本の大規模侵略の野望が着々と進んでいたことを、これも後になって知りました。

それより、少し前、満州国の皇帝が来日。私は小学生の代表として宿舎の赤坂離宮（今の迎賓館）でお出迎えの列に並びました。馬

その夜、明治生まれの父から、「それは不敬罪にあたる」と叱られました。その父の顔も優しかったが、日本の大規模侵略の野望が着々と進んでいたことを、これも後になって知りました。

集団学童疎開

岡松 隆子 81歳

私の思い出は、やはり小学5年の集団学童疎開のことでしょう。敗戦の前年、東条内閣の命令で田舎のない人は全員親から離れ疎開するように決められ、福島のお月様を見ながら、島古の古びた温泉旅館に入り込みました。夜になるとお月様を見ながら

18歳の思い出

小野寺 テツ 78歳

左手に通学カバン、右手は女の人の二の腕を抱え、ゆっくり散歩をしていました。通常は上級生の4年生の任務が、その日はなぜか1年生にまわってきたのです。女の方と「花、かわいいね」等と話したのを覚えています。



あのニコツとした笑顔がうれいものですね。

米国の学校

板倉 肇 79歳

電気が通っていないので、暗いランプでの生活です。ノミ、シラムミにたかれかきむしった跡が栄養失調のためおできになり、今も跡が残っています。お腹がすくので、イナゴや松の実、いたどり、つつじの花をつぶして食べました。

30数年前、米国のアイオワ州の郊外にあるコミュニティ・スクール（中等教育）で研修を受けた時の思い出である。米国の息子たちは「親は越えられないもの」「古きものより新しきもの」と開拓の歴史が進取の気性を生んでいるのかもしれない。

①米国の学校では教師が自分の教室を管理している。生徒たちが教室を移動する。ユニークなのはベルが鳴ると、終了と同時に次の開始でもある。

ることだ。休憩時間もないのでトイレに行くこともできない。幼い頃からトイレは1日3回位と親に厳しくつけられているので問題もないらしい。

花火はダメツ

飯島 登 90歳

永年、営業した店を閉じたら共立病院の人が来て、「友の会をやりましょう」と言われた。僕はバラック建ての城西診療所の頃から世話になっているので二つ返事でOK。

その年の会場は新井小学校の校庭。調子に乗った僕はY子さんと相談して、浅草で花火を買ってきた。頃合いを見はからってドン・ドン・パチ・パチと花火が空に。会場から喝采があつたが主催者からのマイクで「火の気は禁物です」とお目玉。若気の至りと言うのかな。



敗戦と地震

太田 道也 89歳

信じていた祖国の勝利が無惨な禍根を残して敗戦で終わり、一年後は南海大地震に遭った。満州生まれの私は一度も地震を経験したことがなく、この台地が揺れ動くことなど信じられない驚きであった。多くの建造物が崩壊し、身近に悲惨な犠牲者の状況を目の当たりにした。

知らされ、前途への漠然たる希望は無惨に打ち砕かれた。人生の岐路にある十九、二十の心には己の好きなことをやるしかないと決めた。生活は一人なら何とか食っていける、そして東京に飛び出して来た。今日あるのは敗戦と地震が自覚をもたらさず、鳴かず飛ばずの無名の絵描きで生きている。

